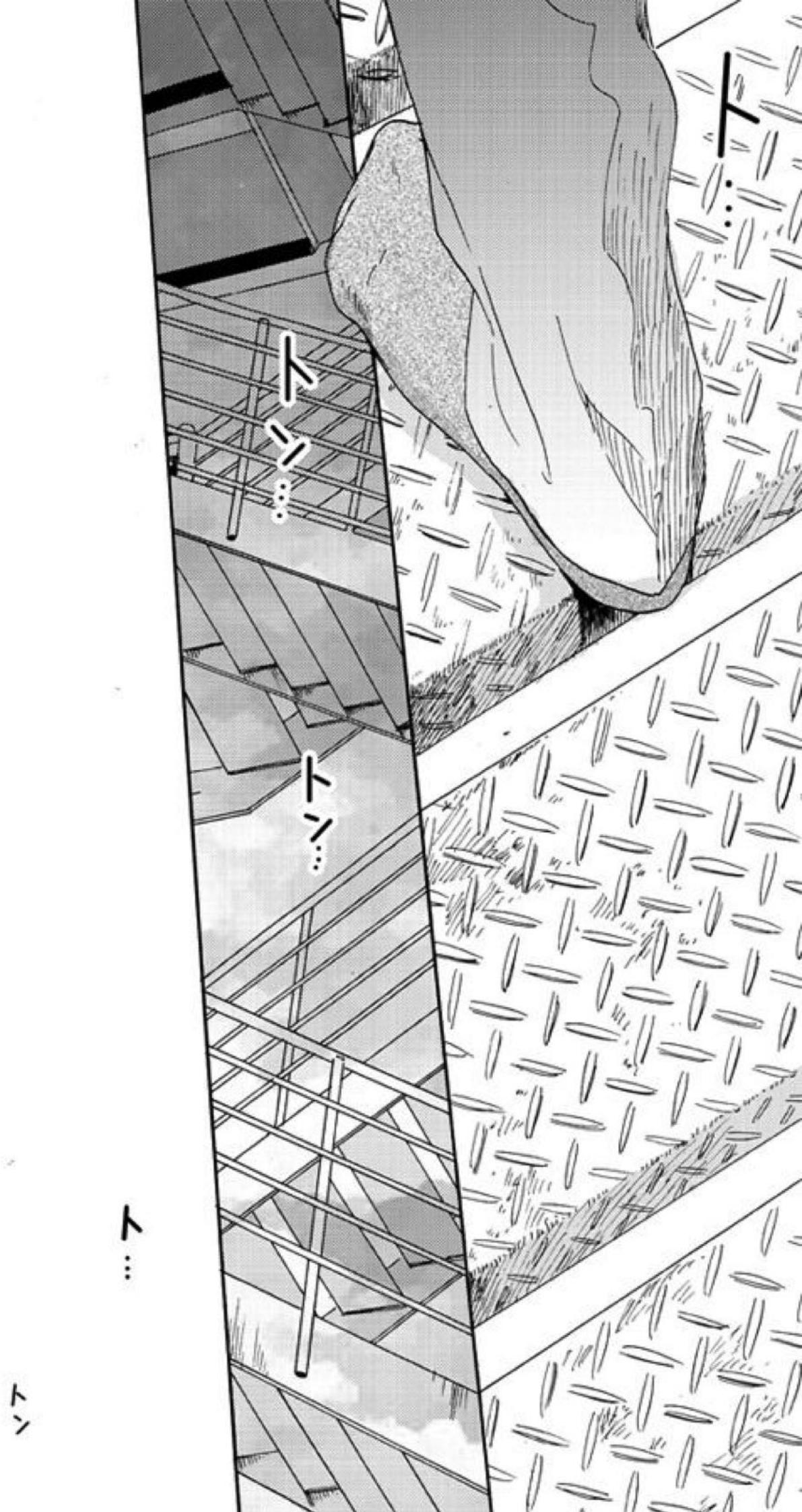




R18
For Adults Only





ト
ン...

ト
ン

ほら





夜景

夜風

屋外階段

怖くて
よくない
くせに

自制心だけが

それは彼の
お気に入りの
コースだった。





カツ

足音を忍ばせる
余裕なんてなかつた



極度に昂ぶる神経の中

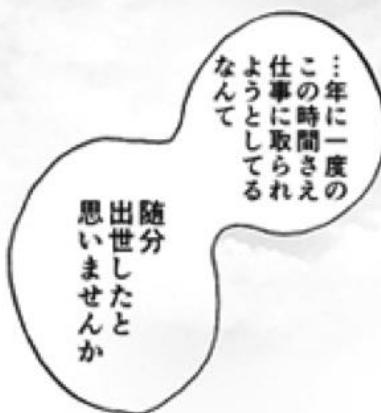
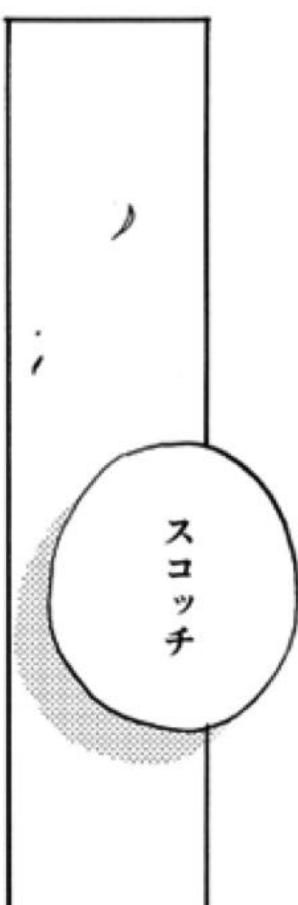
カツ

スコッチ、

—スコッチ

その音は
ひどく
脳髄へ響いた









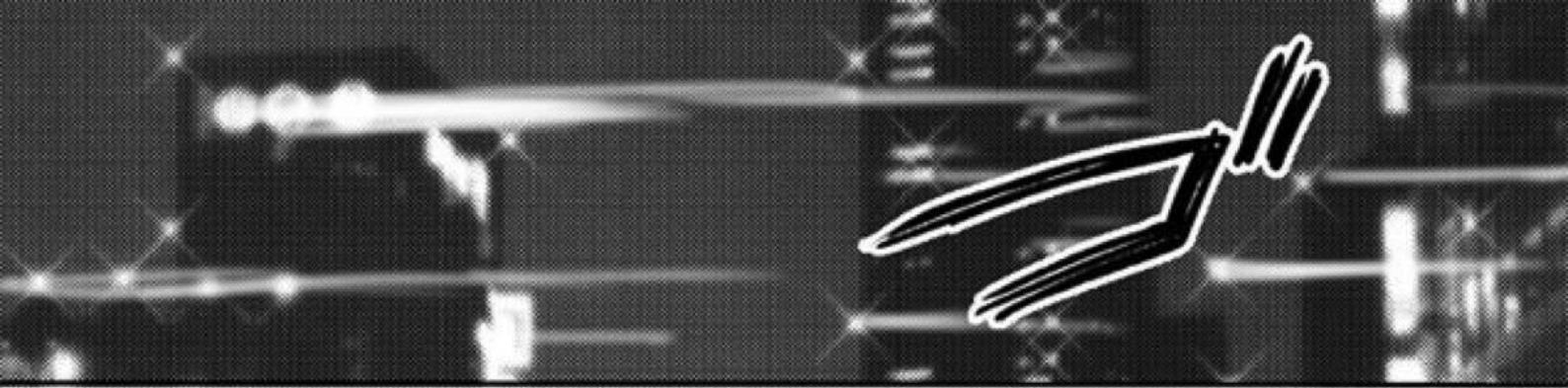
#01 落とすもの





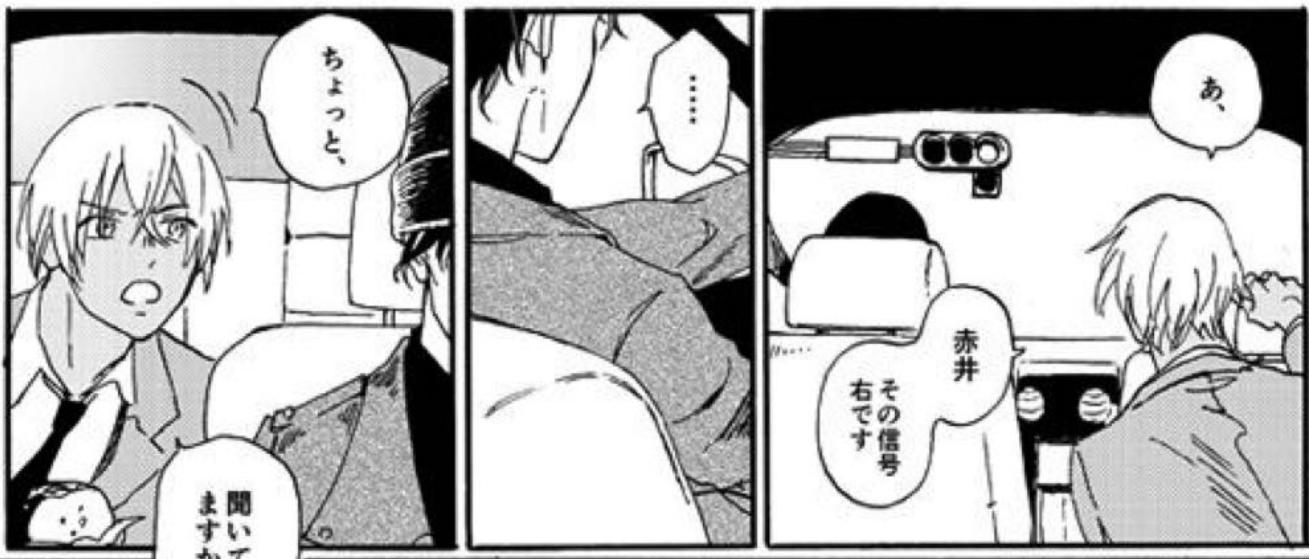




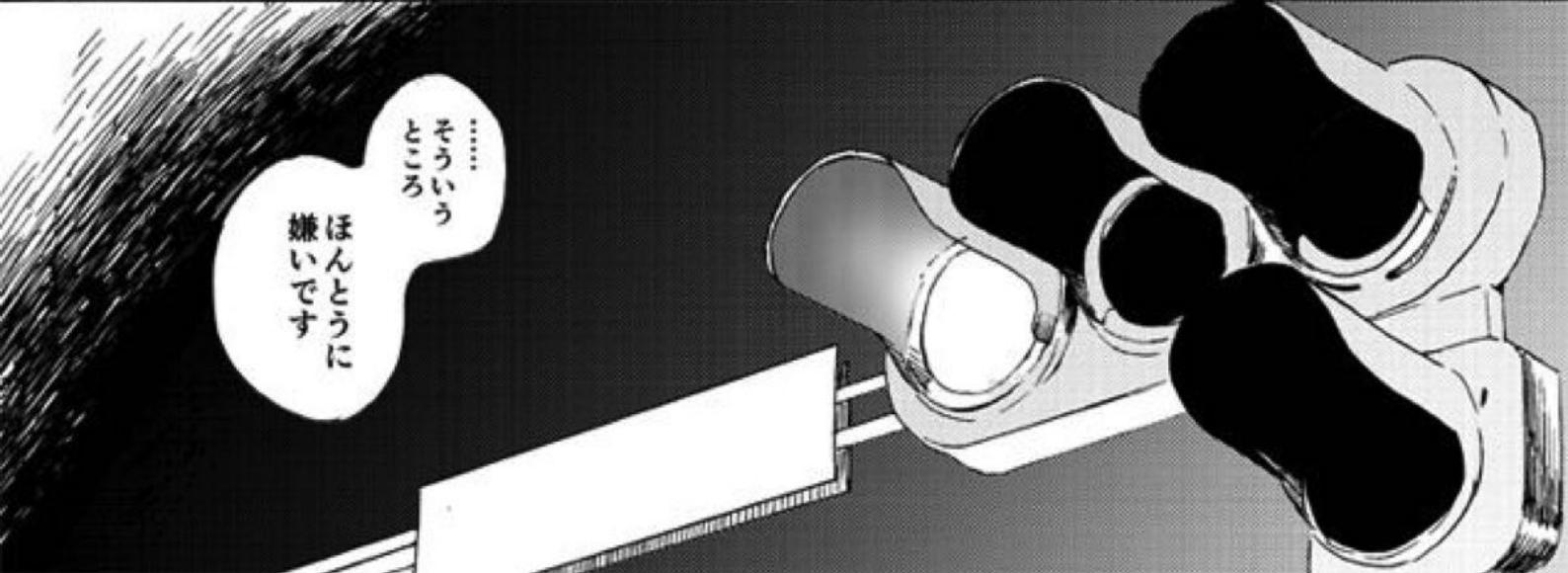








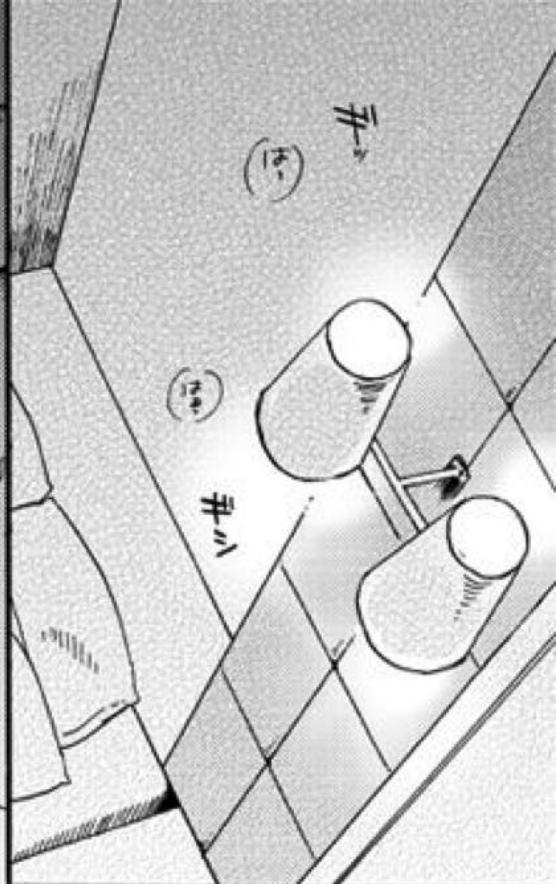
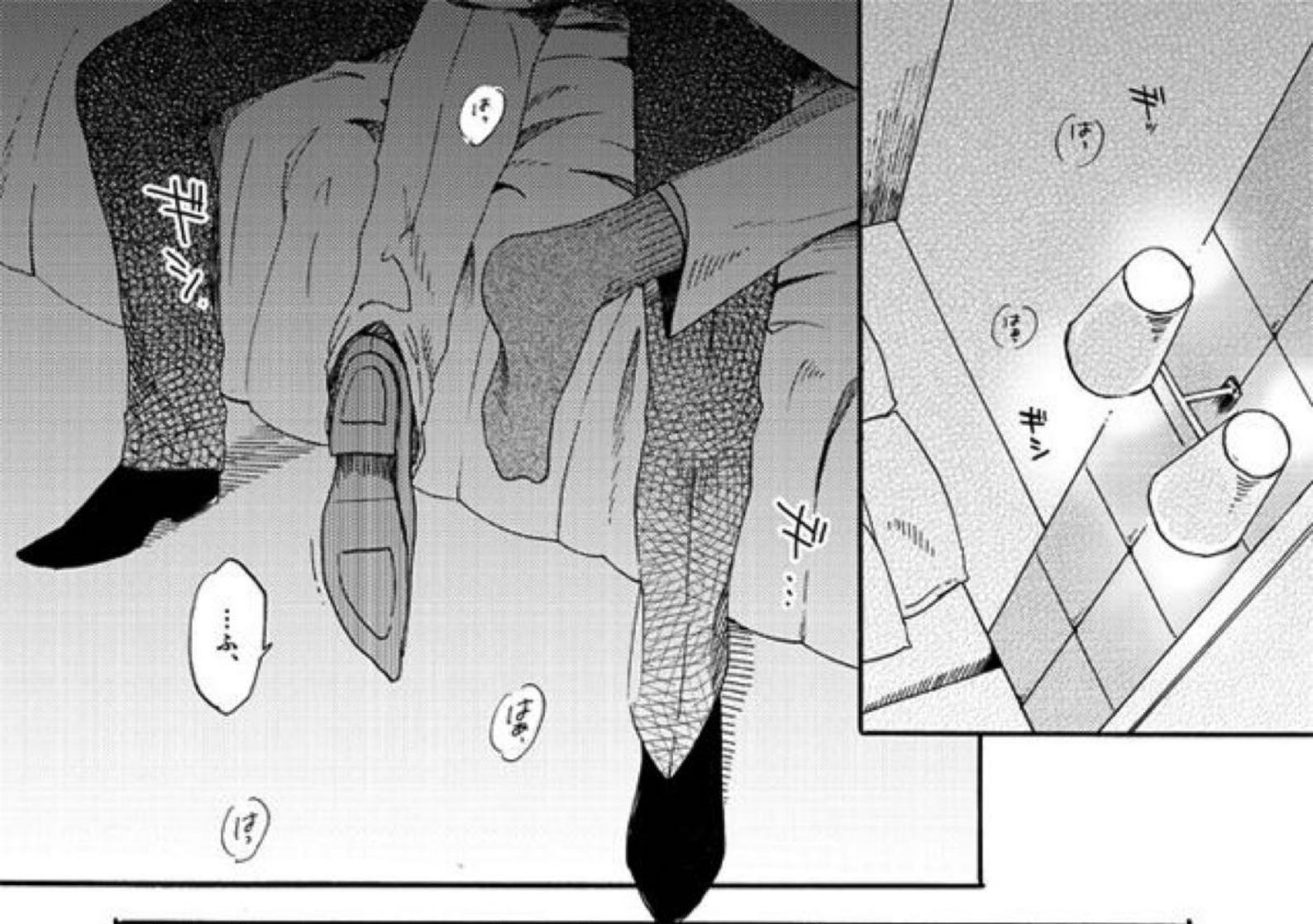








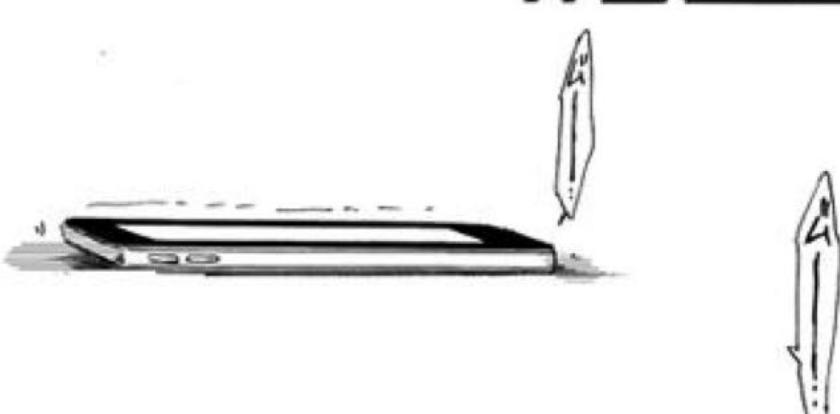


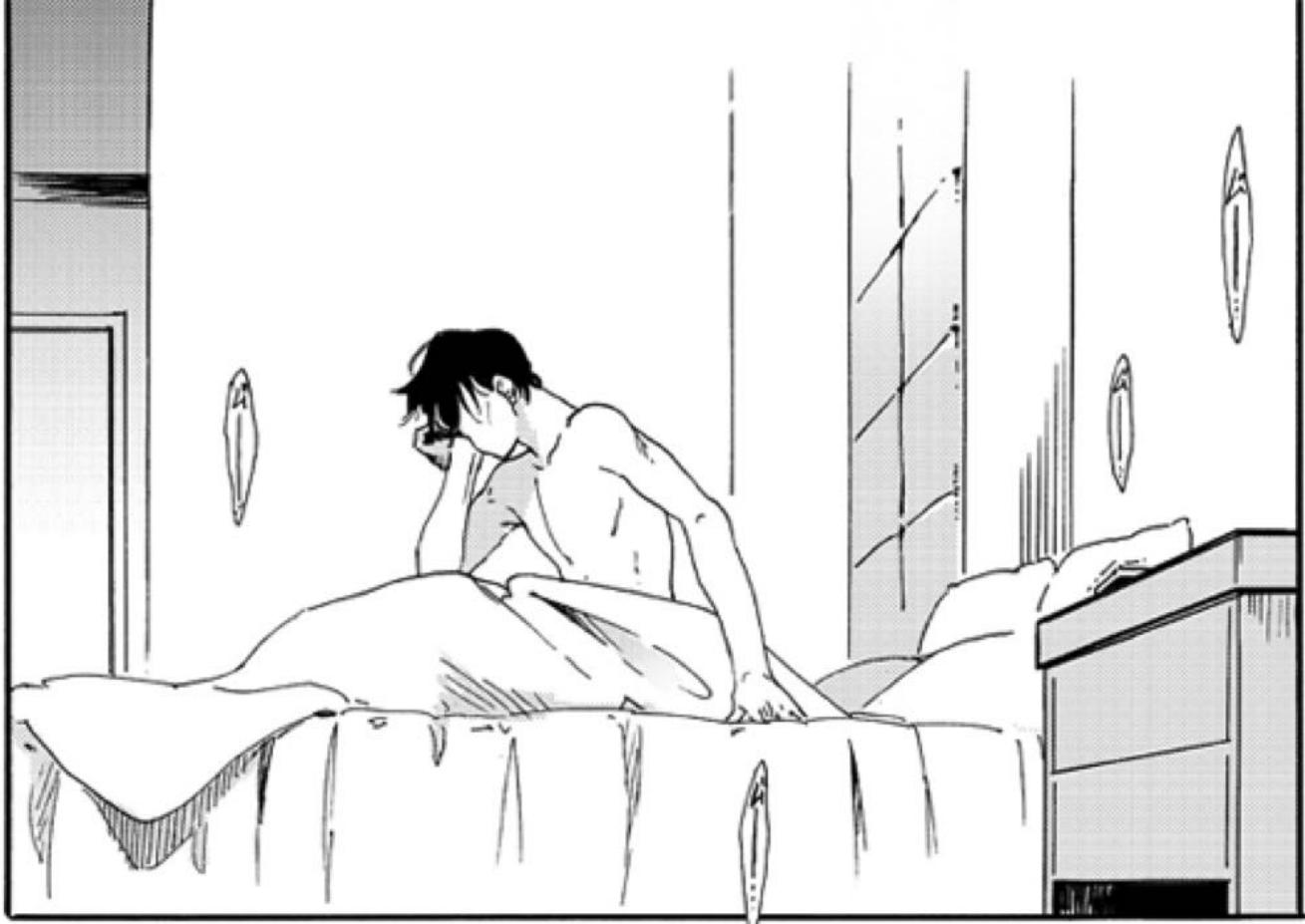






君を嫌
わけじや
ない

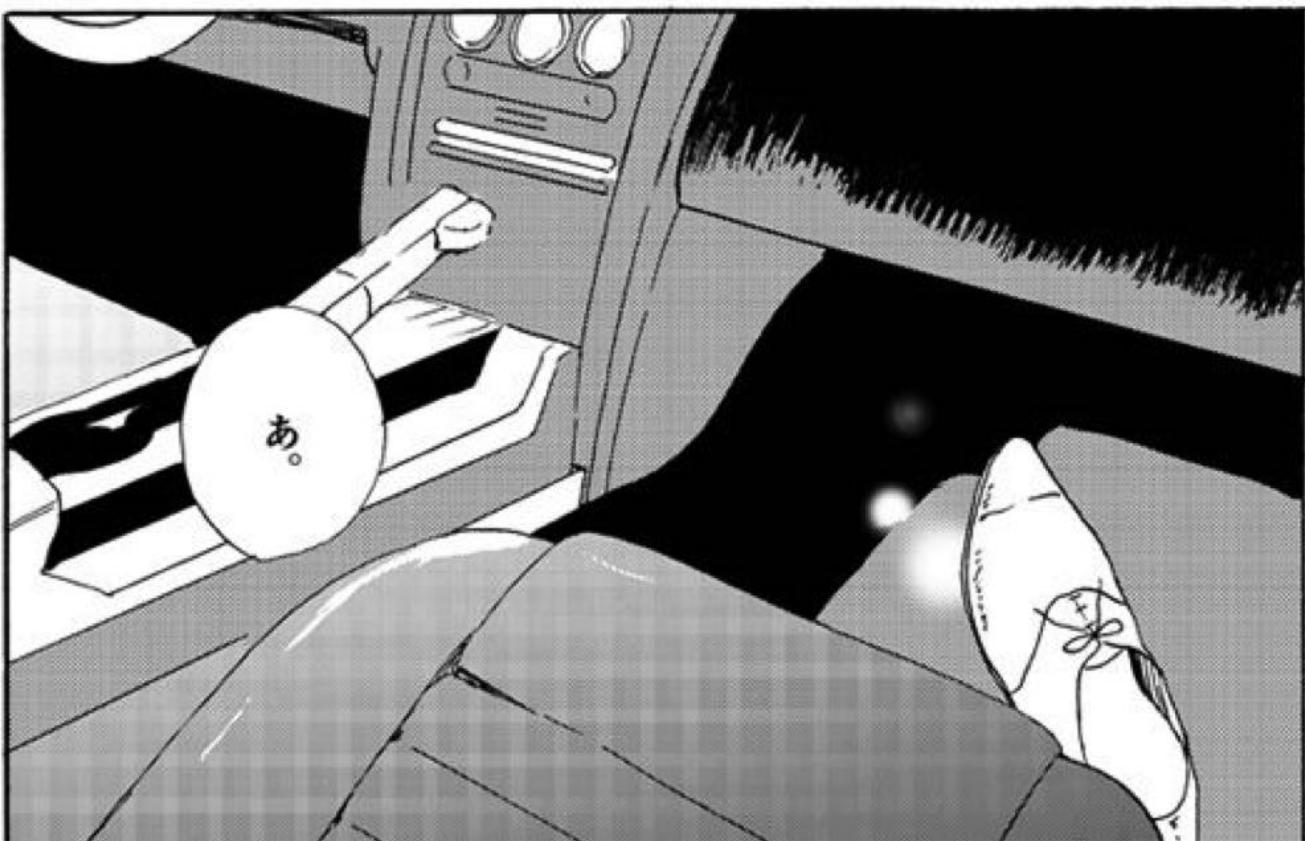
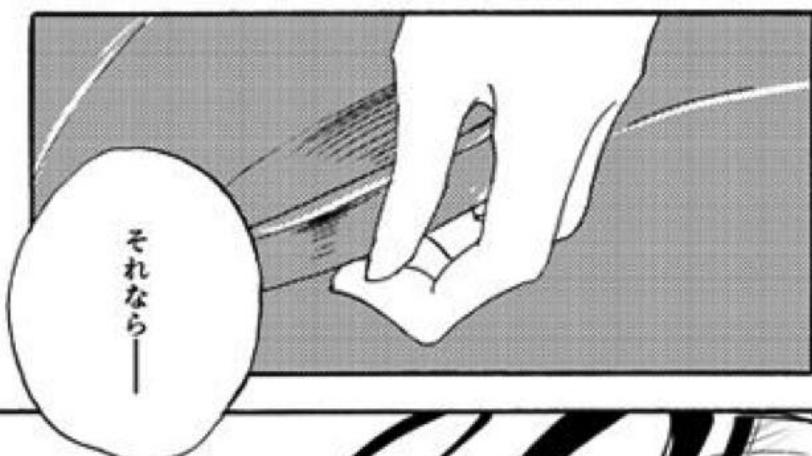




あ
の
子
供
に
弱
い
…



…あ
あ、
ボウヤ
か？







赤井さん、

#03 The things they carried

安室さんとは
一緒に組んで
いたの？



ボウヤが
何よりも
そう思つたなら

だい動3人で
ろうふりなんて

いひ赤井
いとつさん
きいて

それと
動くと
一緒に

なんだか
安心でき
た

ホオー…















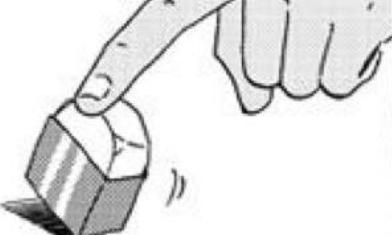


あら、

また喧嘩
しちゃった
の？

ダメよ
零くん、

いいつともつと
あるつやり方
がことだ



喧嘩はダメだと
その人は言つた

あ！
ゼロが女子
みてる！

怒ること
だから

いける
のかつて

向こうから
くるのに！
そんなこと
言つたって

逆に…





最初から



距離20 謙衛0



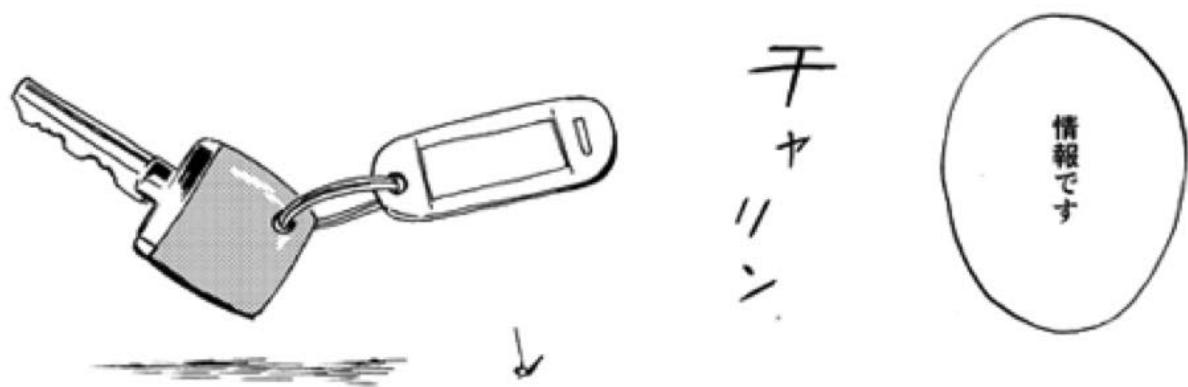
腹の底を
見透かすような

また…

こいつの目が
嫌いだった













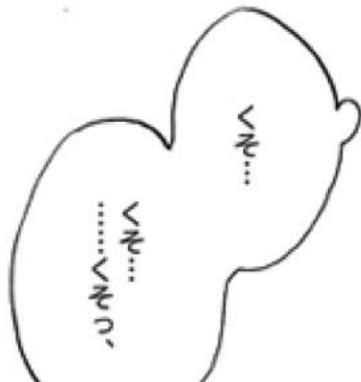
あなたが
抱きしょ
ういい













「ライ」が
俺を抱いたのは
その一度きりだった

見えないものは
見えないまま

隠された真実

自死の理由



真相を探るたびに
スコッチは死に続けた

俺は赤井を
憎んだ

憎んだまま
生き続けた

死の影はいつも
そこにあつても

それでも





その男は
生きていた









内側を暴く
忌々しい存在



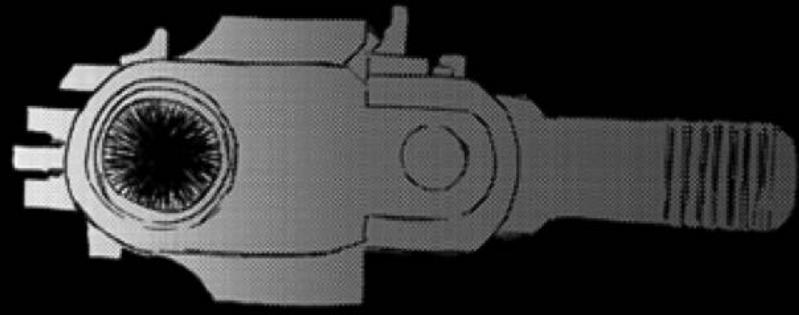
ばかりは

「異物」

内部を出入りする



死んだ
と思った



ギリギリの
ところを渡っている



なのに



それぞれが

細い線の上を
ただ孤独に



何故

なぜお前には
俺が見える

あ
あ

は

どうして
透明なままで
居られないで



な
あ
スコッチ



生きて



生きている

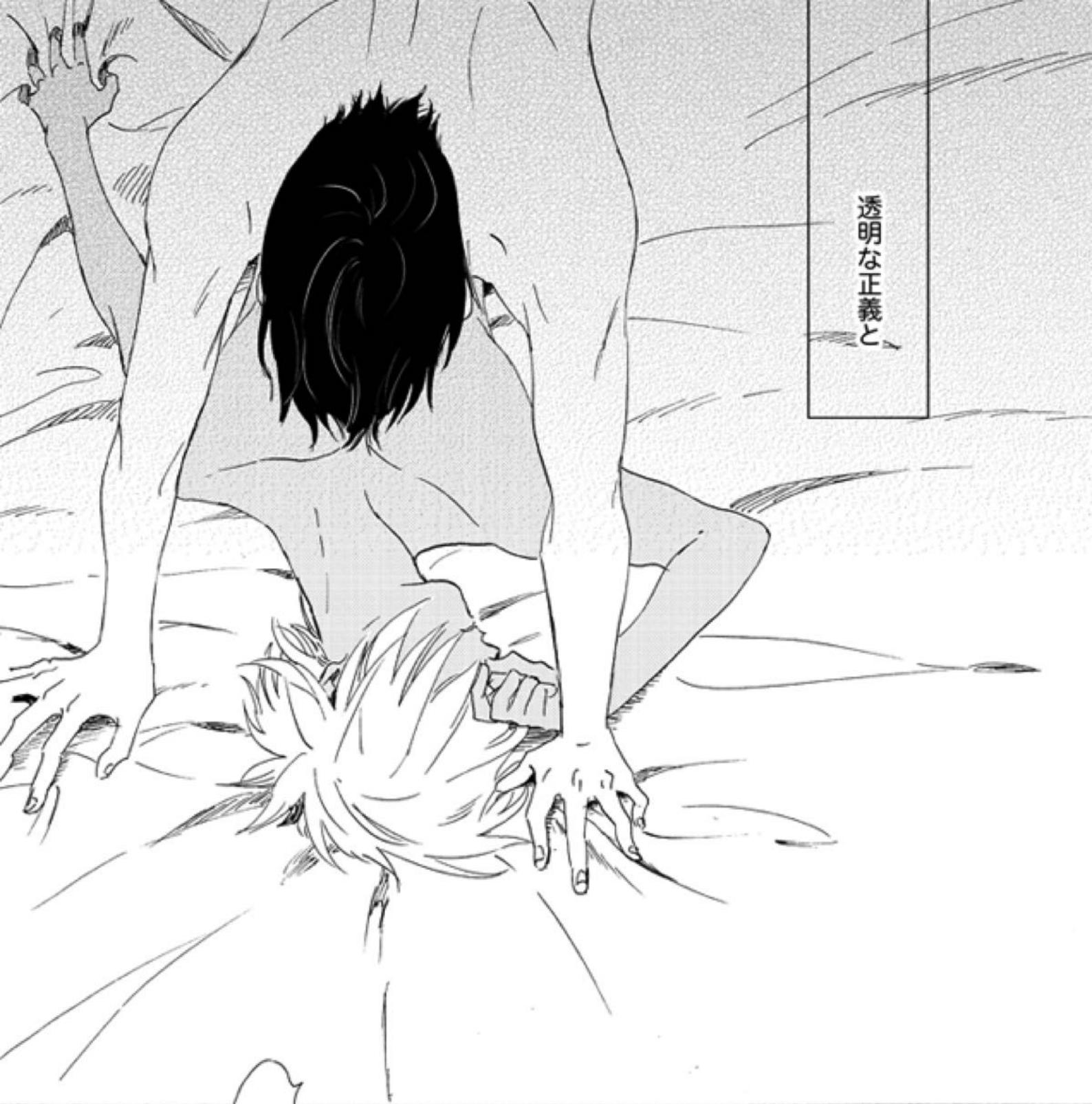
③

透明な正義と

どうしようもない
熱を抱えて

…ツ、

あかい…



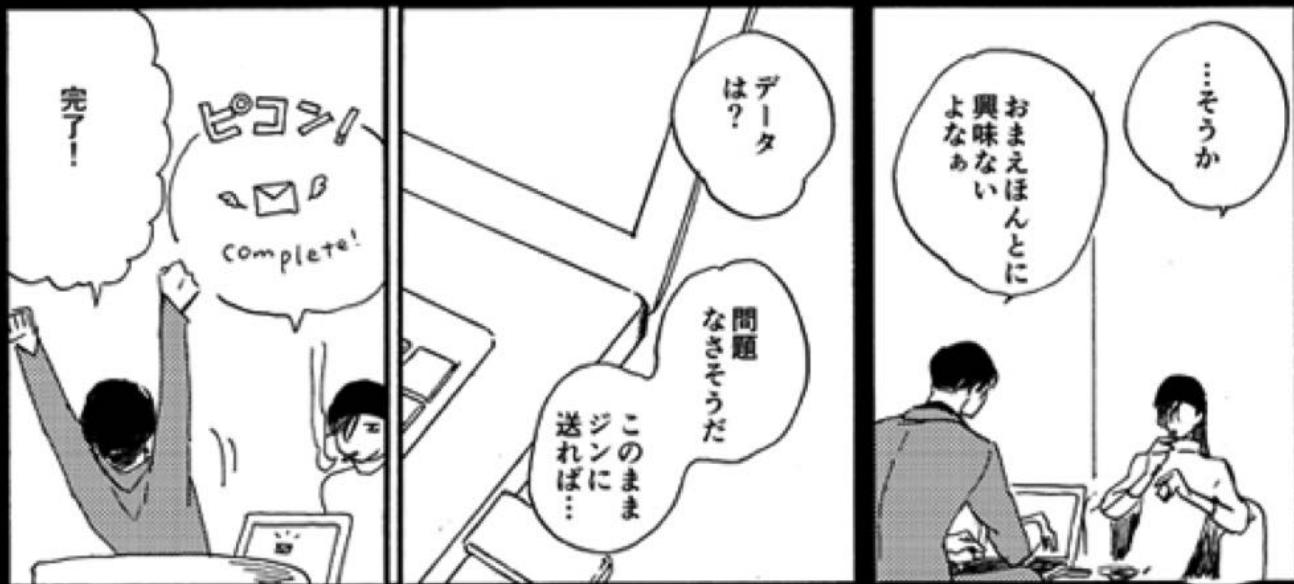




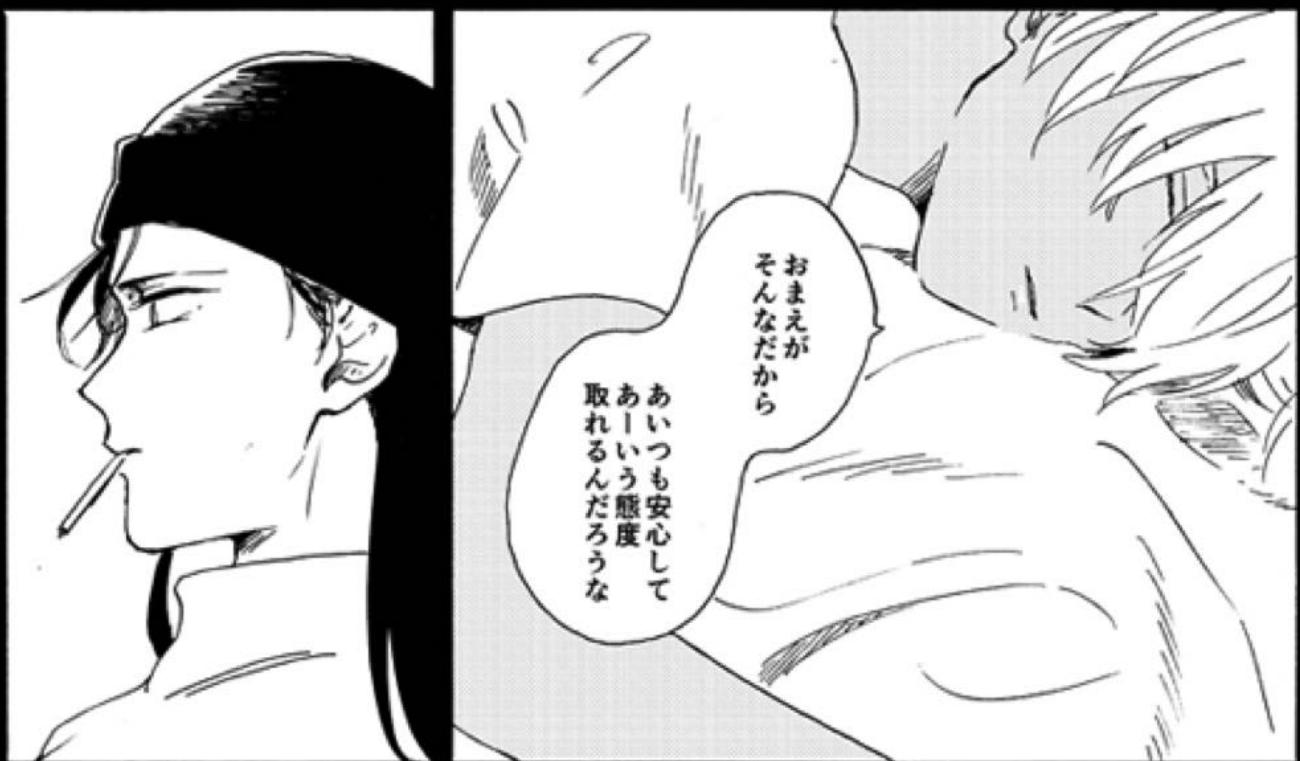
05 蒸溜



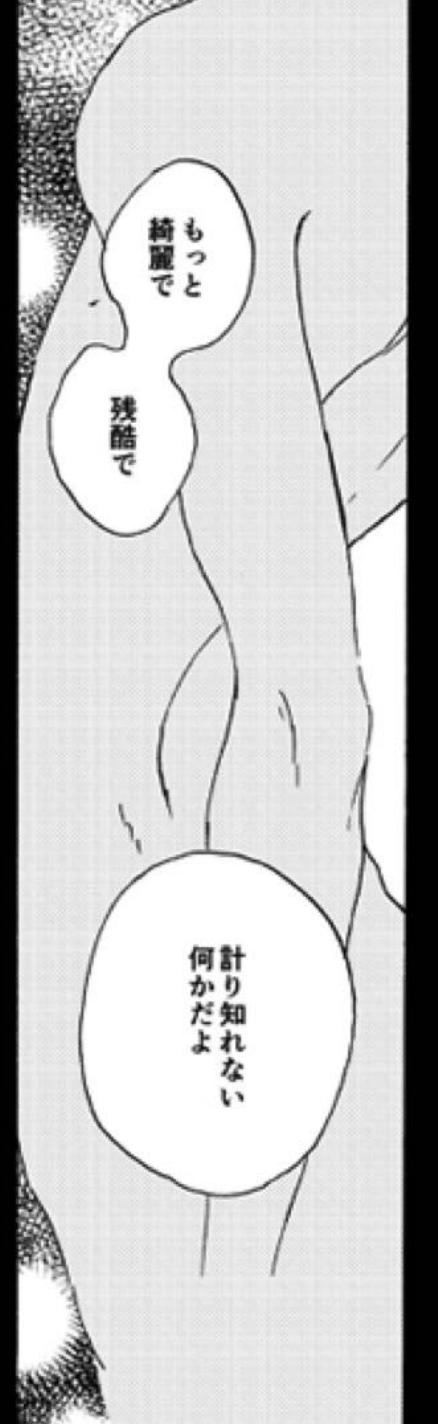






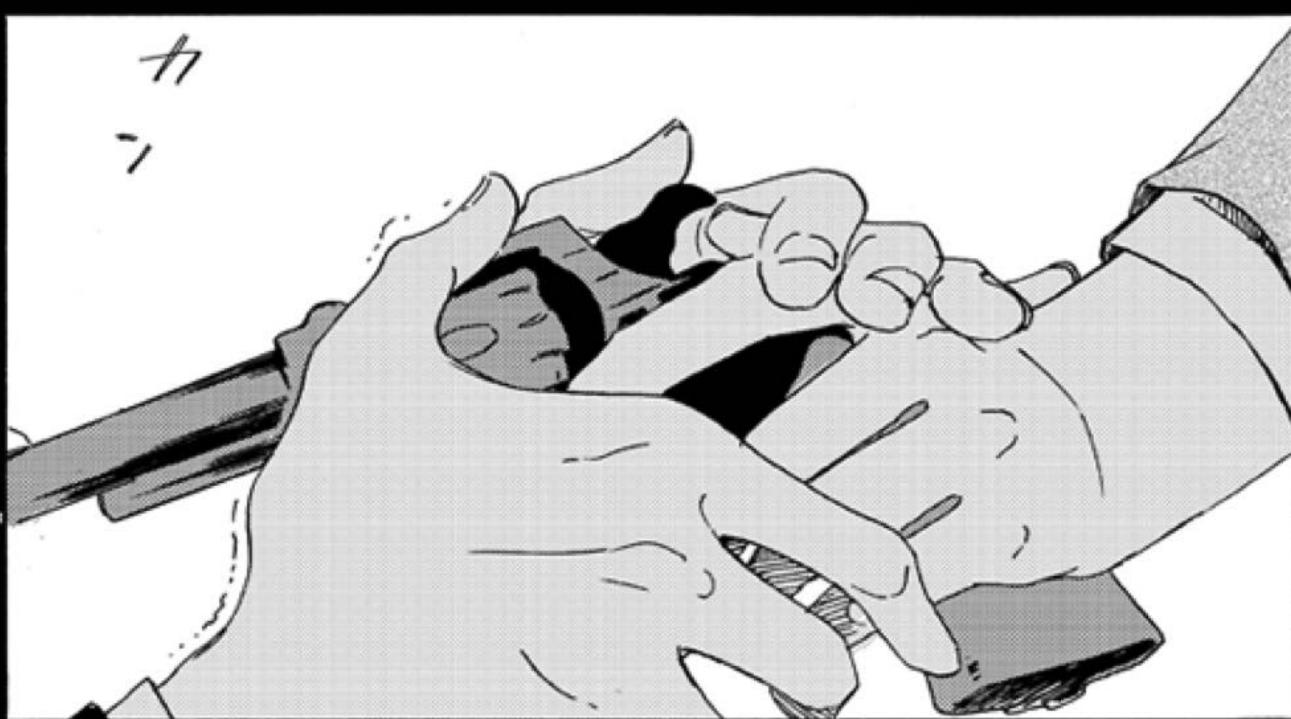
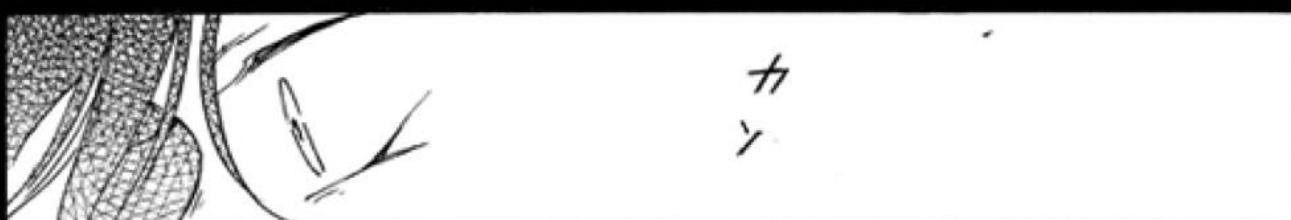
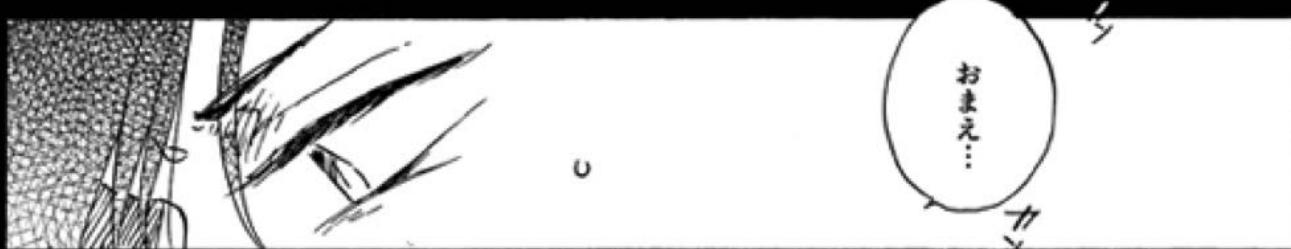


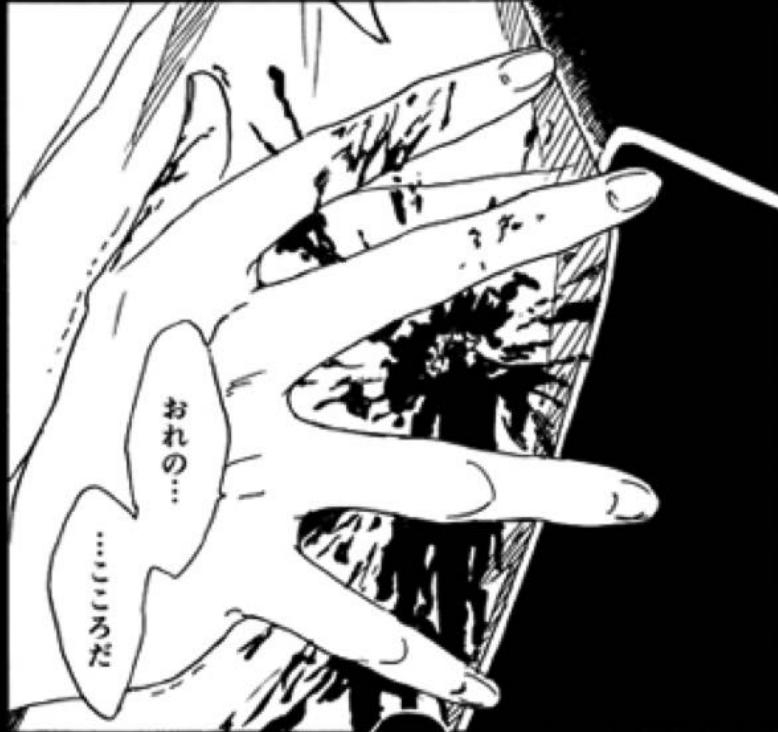


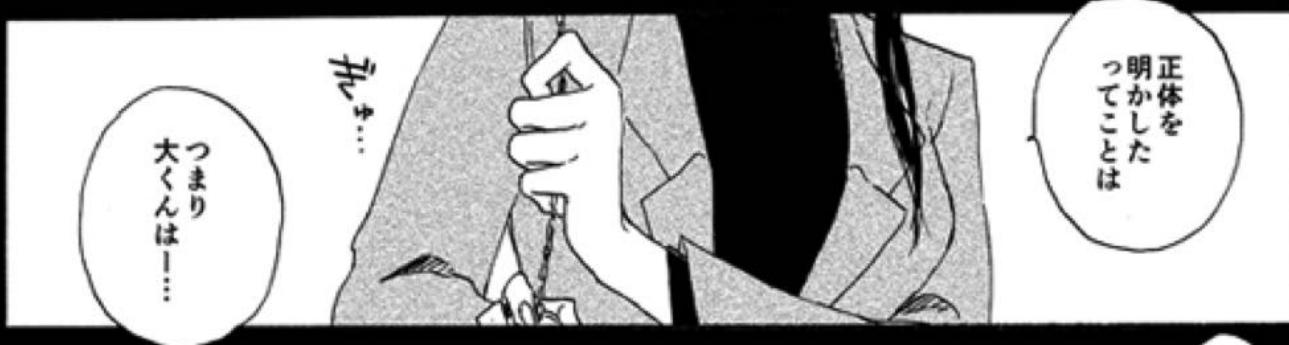




心臓でも開いて
見せようか？











雨
き
ち
や
つ
た
降
つ
て

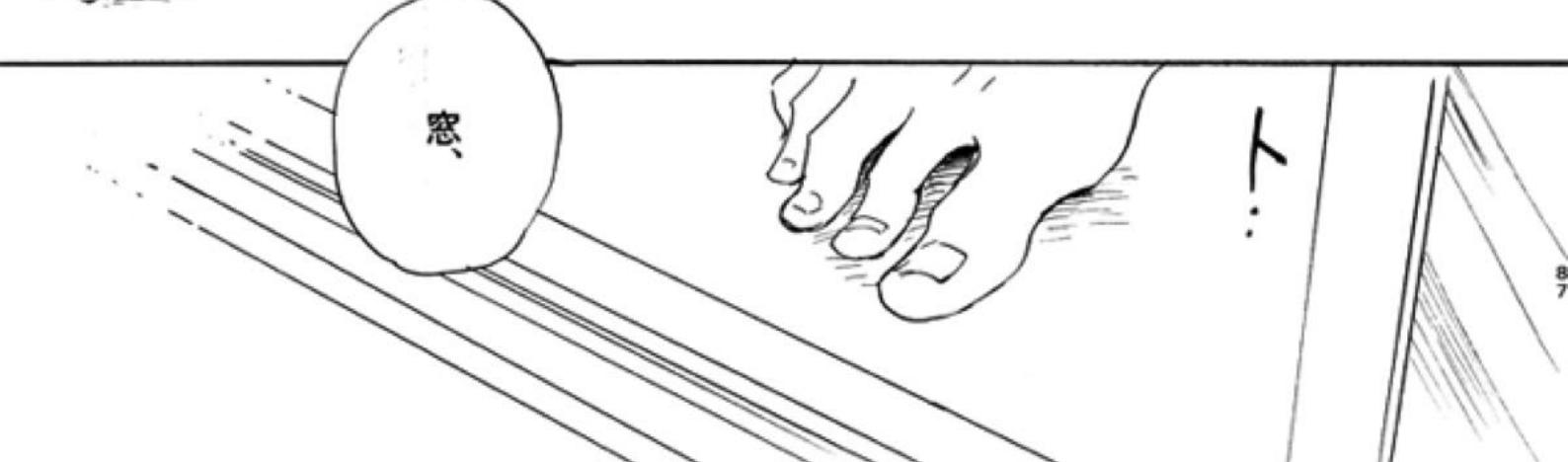
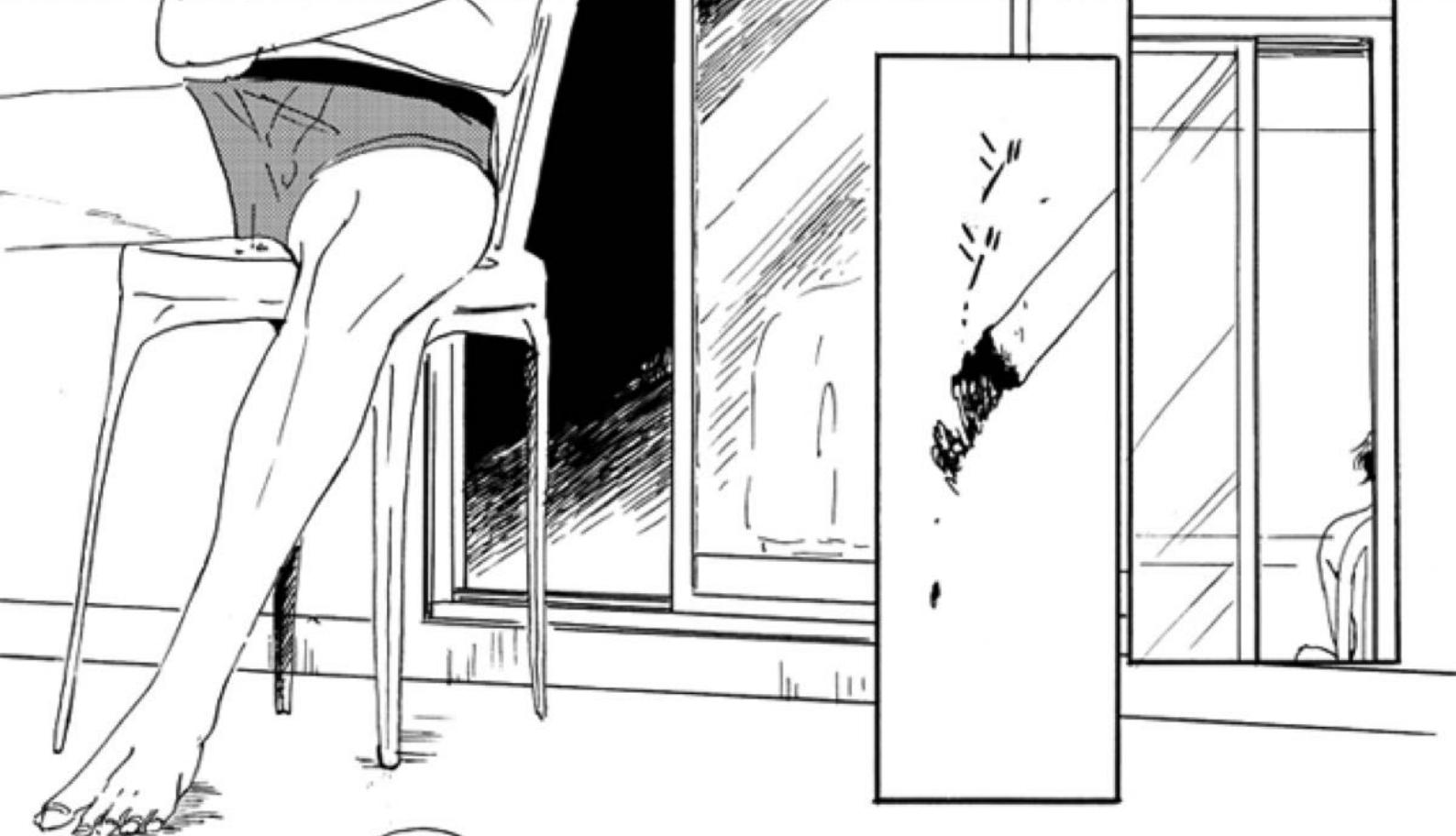
二二九

ありがと

…でも心配
してくれて
嬉しかった

三

110





どうして
開けっ放し
するん
ですかに



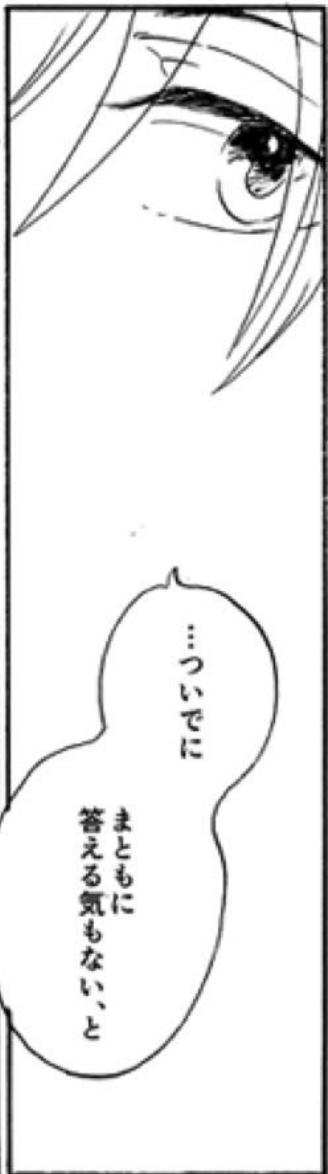
ひとつ、
いいですか

…どうして

僕を
助けたんです

…
つもりは
ないな
助けた



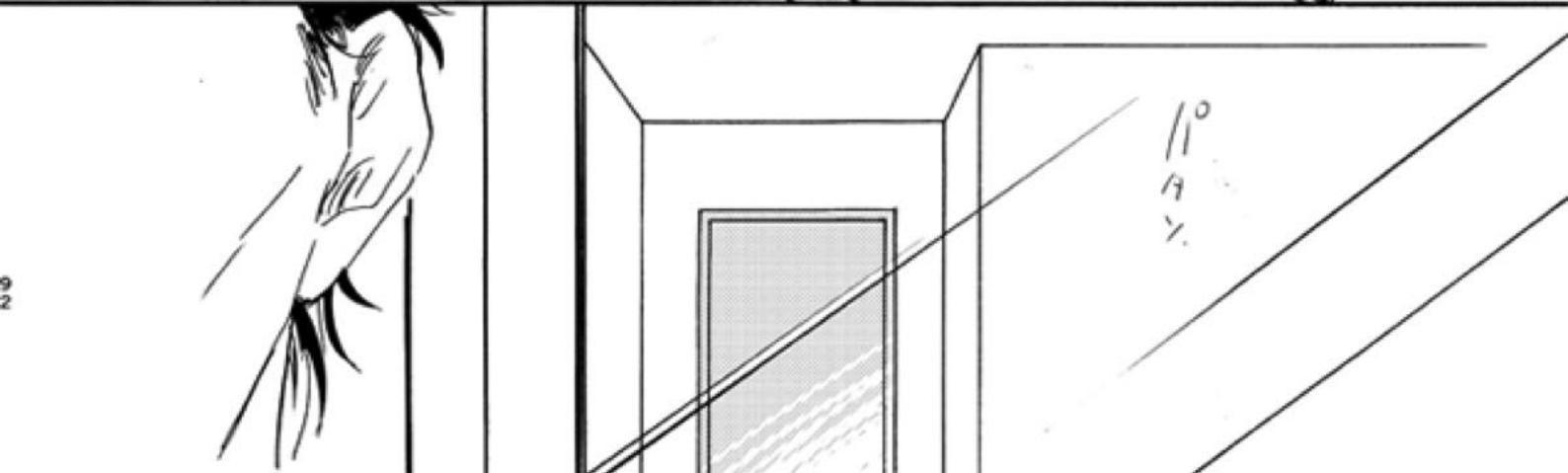
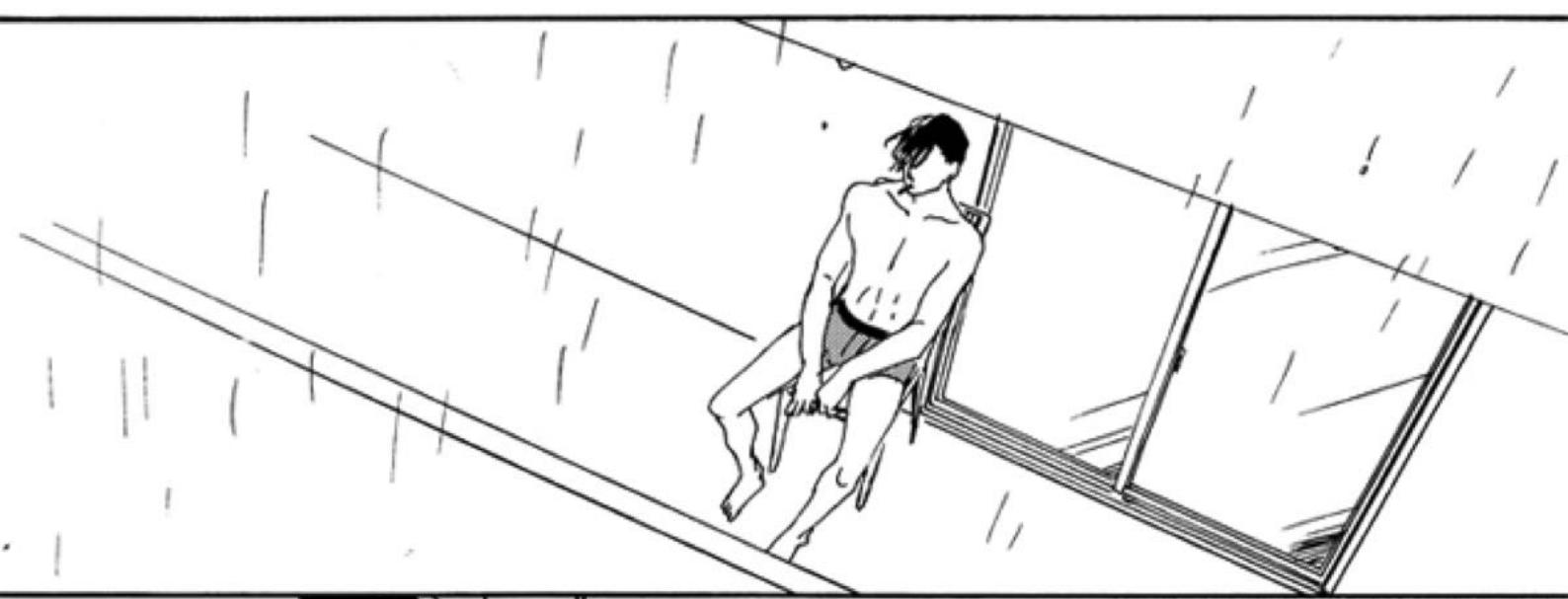
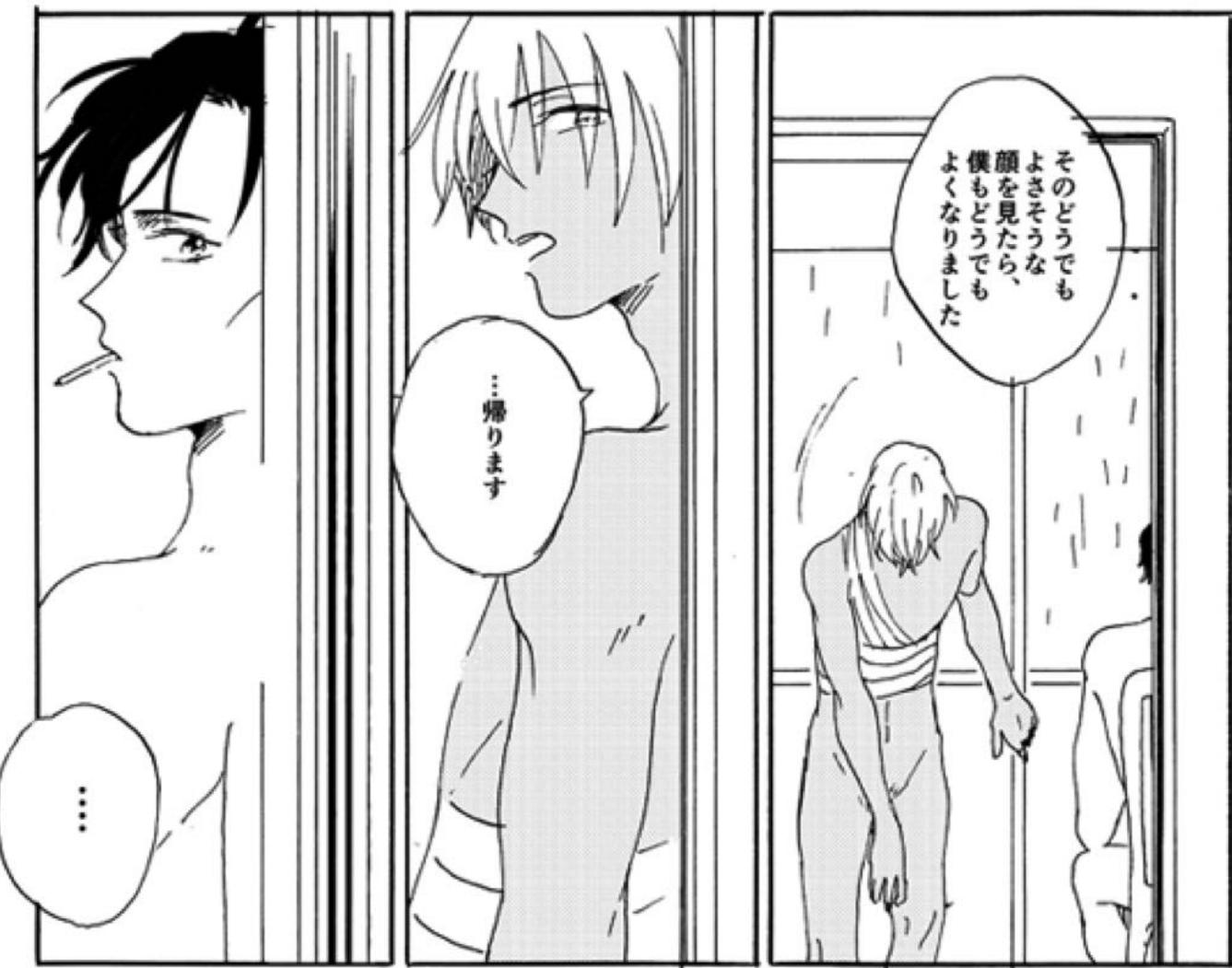


ので、借りを
しまってた

何か言っておく
べきかと思つたん
ですが

はあ。







本当は
どこまで
気付いて
いる

君に見える
眞実は

今はどんな
形をして
いる?

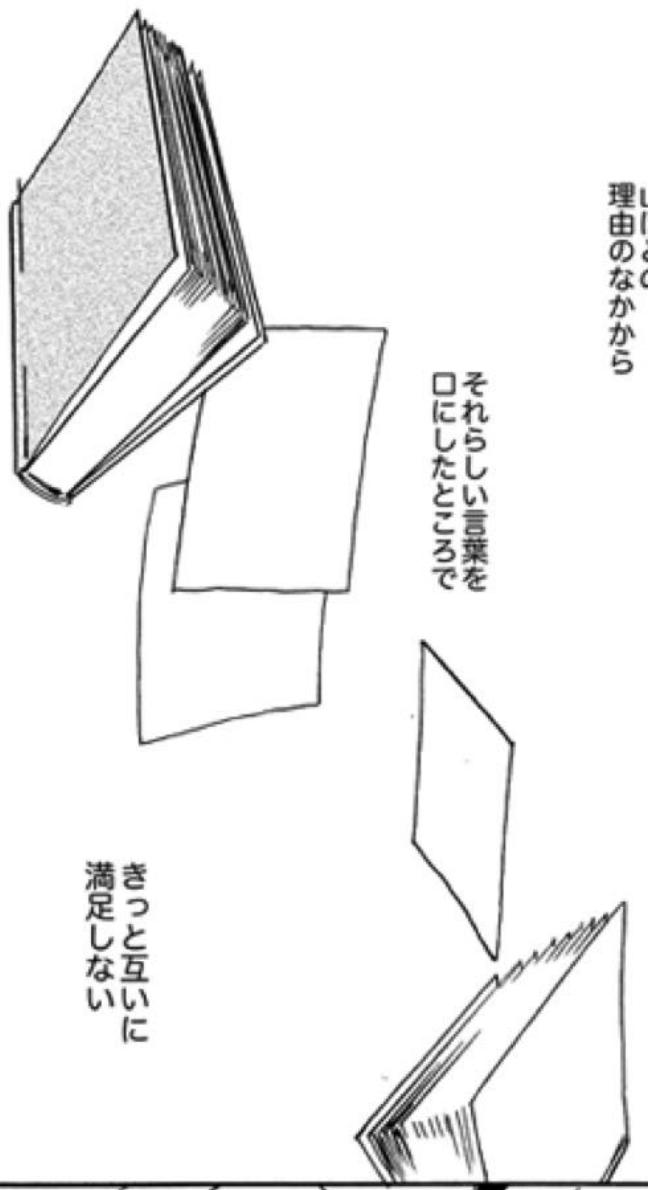
といへい

思い付
つてのい
だて
たと



状況に見れば
それは彼の洞察力に
不可能なことではない





そうだ

ただ

そう決めた

口を開くこと

伸手をすること

零れたものを
掏うこと



決めたことは
絶対だ





久しぶりだな、

安室君





06 波の打つ際

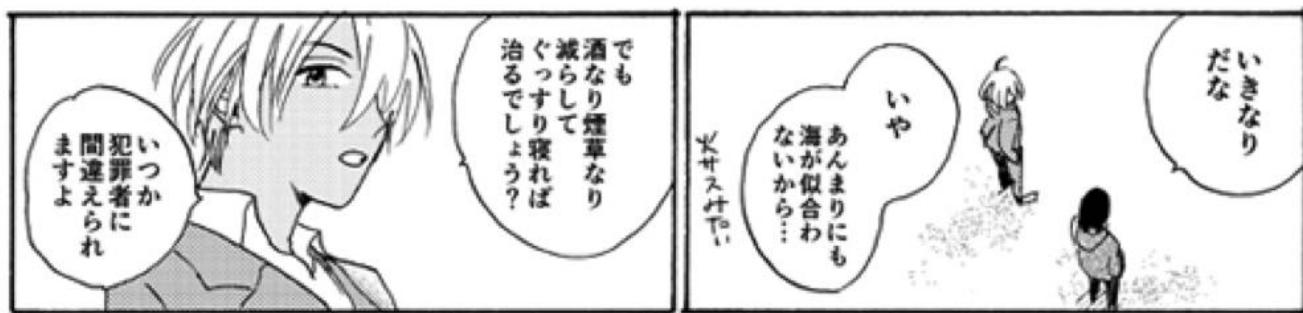




××

海に行きたい、
といったのは
安室君だった













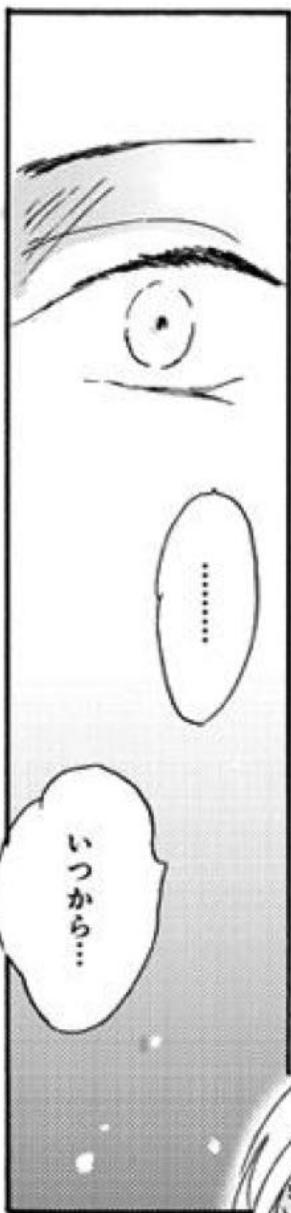
...そ
う、
と思
つか
て言
のた
おう





僕はきっと
あなたを一生許せない





赤井、

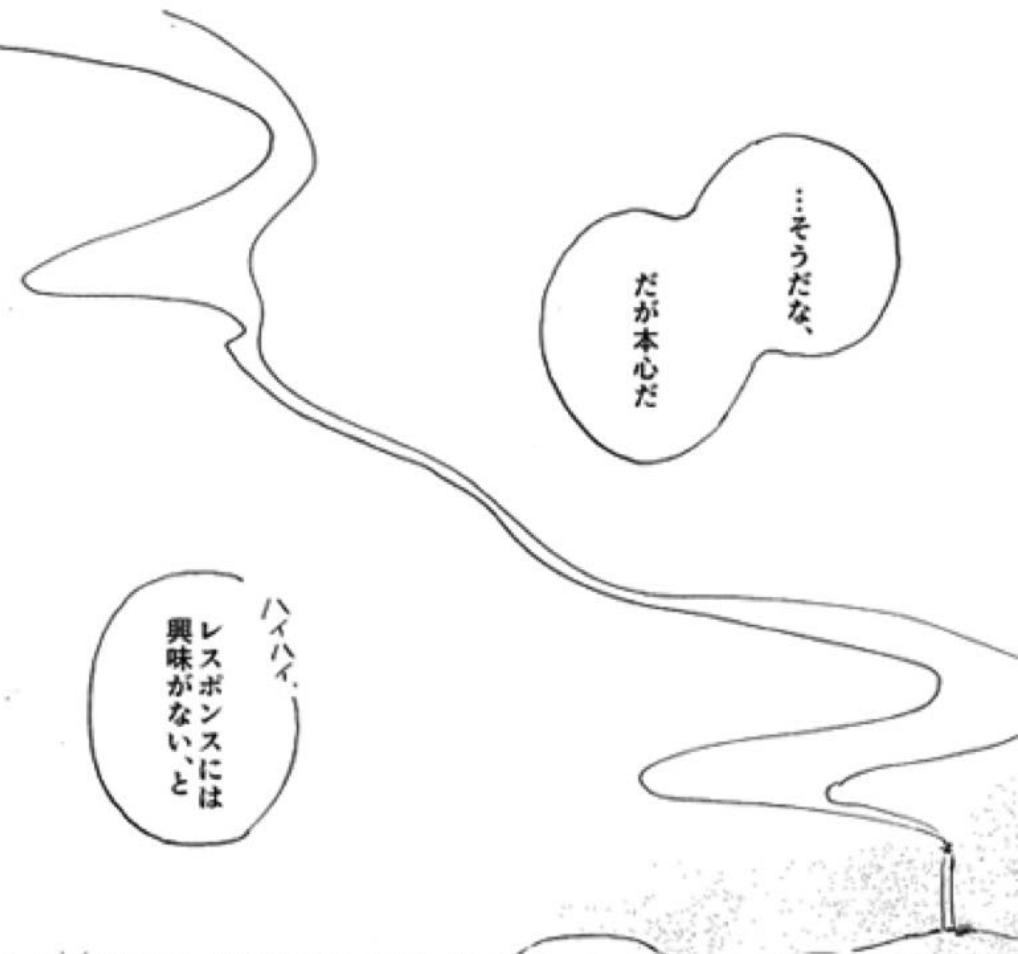
僕には…

…いや、

どうせ
あなたの
ことだ、

許されたいなん
ないんてるわけじ
ゃう

二度と僕に
謝らないで
ください



ハイハイ、
レスポンスには
興味がない、と





行こう、

ここは
冷える







けつこう
熱いですよ

僕

